



福島第一原子力発電所の廃炉に向けて

キビタンの
わかる
県政

現在、国と東京電力により、汚染水対策や使用済燃料の取り出しなど廃炉に向けた取り組みが進められています。県では、安全確認を行う体制を整備し、廃炉作業が安全かつ着実に進むよう、厳しく監視しています。

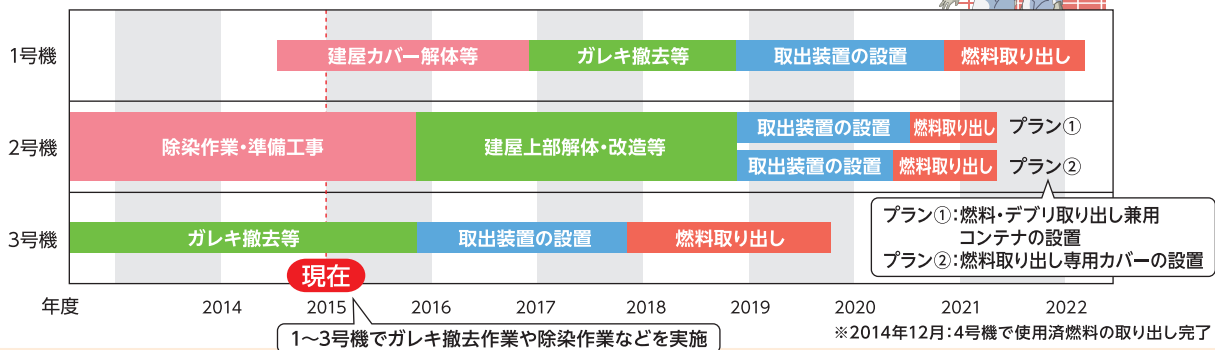
廃炉作業がどのように進んでいるのか教えてほしい。(鏡石町 40代)



廃止措置等に向けた中長期ロードマップの改訂

廃炉作業は、国が定めた中長期ロードマップに基づいて進められています。平成27年6月、県や市町村などの意見を踏まえ、安全を優先した燃料取り出し工程への見直しや汚染水対策の今後数年間の目標を具体化するなどの改訂が行われました。

《使用済燃料プールからの燃料取り出し工程について》



廃炉のためには、原子炉からすべての燃料を取り除く必要があります。このため、使用済燃料プールから燃料を取り出した後、原子炉内で溶融した燃料(燃料デブリ)を取り出します。

原発の廃炉を安全に実現してほしい。(いわき市 60代)



県の安全確認体制について

1号機建屋カバー解体作業におけるモニタリングの強化

東京電力は、1号機のガレキ撤去作業のため、平成27年5月15日から、建屋カバー解体作業を再開しました。



楢葉町駐在による監視

職員5名により福島第一原発構内の調査や情報収集を行っています。



県はどのような対応をするのかな？

- 平成26年度中にモニタリング機器を増設し、放射性物質の飛散をリアルタイムで検知できる体制を強化しました。
- 万一、異常が確認された場合は、追加でモニタリングを行い、県ホームページに結果を掲載するほか、市町村や報道機関に迅速に情報提供します。



毎日どんな活動をしているのかな？

- 職員2名体制でローテーションを組み、平日は毎日、福島第一原発に立ち入り、現場を確認しています。
- 免震重要棟にて原子炉の注水状況や使用済燃料プール水温などを確認しています。
- トラブル発生時には、休日、夜間を含め、速やかに現場確認を行います。

廃炉安全監視協議会 (専門家・県・市町村職員により構成)



立入調査の様子 (H27.6.23)

今年度4月27日、6月23日に立入調査を行い、カバー解体の準備作業やボルト締め型タンク解体作業の実施状況などを確認しています。調査後には、解体作業において放射性物質を飛散させないよう東京電力に対して申し入れを行いました。

廃炉安全確保県民会議 (県民・各種団体・学識経験者により構成)



現地視察の様子 (H27.5.30)

今年度は5月19日に1回目の会議を開催し、廃炉に向けた取り組みの進捗状況を確認しました。また、5月25日、30日には現地視察を行いました。会議で出された意見は廃炉安全監視協議会が行う国と東京電力の申し入れに反映していきます。

問 県庁原子力安全対策課 ☎024(521)8054

福島県 原子力安全対策課

検索

廃炉作業が安全かつ着実に進むよう引き続き確認していきます。

